

第4次伊賀市地域福祉計画策定後の進行管理について（案）

◎成果の「見える化」を図る

- ・分析のための指標・・・健康寿命、人口動態
- ・成果を確認する指標・・・地域予防対応力、生活満足度、地域福祉資源力

①健康寿命：第3次計画と同様に、毎年確認する。

②人口動態：国勢調査結果に基づく推計との相違を確認する。

③地域予防対応力：第3次計画と同様に毎年確認する。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、R2年度の数値は参考外。

今後コロナ禍においても影響のあまり出ない指標への検討を行う予定。

④生活満足度：第3次計画と同様に毎年確認する。

※市民アンケートの結果。これまでの重要度と満足度から、参画度と満足度へ。

⑤地域福祉資源力：第4次計画から新規に取り入れた指標。

※R3年度中に、集計の仕方を含め、指標として詳細の確立を図る。

新たに導入する予定のシステムの活用も含めて。

◎戦略に基づいて取り組みを進める

- ・「地域の力を高める」「専門機関の力を高める」「地域と専門機関をつなぐ」

①社会福祉協議会との連携により、地域住民主体の取り組みをサポートしながら地域の力を高める。

②多職種の専門職間の連携をさらに深めるとともに、多機関が協働するしくみの構築を行い専門機関の力を高める。

③地域福祉コーディネーターや相談支援包括化推進員等が中心となり、地域と専門機関をつなぐ役割も強化する。

◎重層的支援体制整備事業に取り組む

- ・高齢者、障がい者、子育て世帯、生活困窮者に対する支援を一体化する。

①相談支援としては、4分野の相談を「受け止める」、「つなぐ」機能と、アウトリーチ等の手法により、支援が必要な人に支援を届ける機能、複雑化・複合化する課題について、支援機関の役割をコーディネートするという3つの機能。

②参加支援としては、社会とのつながりを回復するために、一人ひとりのニーズに応じた社会資源とマッチングさせるとともに、その新規開拓。

③地域づくり支援としては、これまで分野をまたいだ利用が出来なかった居場所等について、相互利用が出来るようにするとともに、多様な主体に参画してもらい、新たに交流できる居場所等を作る。また、活動を行う場や人をコーディネートする機能も併せ持つ。